

[ 東京工業大学 2004 年 前期 1 ]



$a, b$  を正の実数とする。

(1) 区間  $a < x$  における関数  $f(x) = \frac{x^4}{(x-a)^3}$  の増減を調べよ。

(2)  $a < x$  における関数  $g(x) = \frac{1}{(x-a)^2} - \frac{b}{x^3}$  のグラフと相異なる 3 点で交わる  $x$  軸に平行な直線

が存在するための必要十分条件を求めよ。





(1)  $f(x), g(x)$  を連続な偶関数,  $m$  を正の整数とするととき,

$$\int_0^{m\pi} f(\sin x) g(\cos x) dx = m \int_0^{\pi} f(\sin x) g(\cos x) dx \quad \text{を証明せよ。}$$

(2) 正の正数  $m, n$  が  $m\pi < n < (m+1)\pi$  を満たしているとき

$$\frac{m}{(m+1)\pi} \int_0^{\pi} \frac{\sin x}{(1+\cos^2 x)^2} dx = \int_0^1 \frac{|\sin nx|}{(1+\cos^2 nx)^2} dx = \frac{m+1}{m\pi} \int_0^{\pi} \frac{\sin x}{(1+\cos^2 x)^2} dx \quad \text{を証明せよ。}$$

(3) 極限值  $\lim_{n \rightarrow \infty} \int_0^1 \frac{|\sin nx|}{(1+\cos^2 nx)^2} dx$  を求めよ。



[ 東京工業大学 2004 年 前期 3 ]



3 枚のコイン P, Q, R がある。P, Q, R の表の出る確率をそれぞれ  $p, q, r$  とする。このとき次の操作を  $n$  回繰り返す。まず, P を投げて表が出れば Q を, 裏が出れば R を選ぶ。次にその選んだコインを投げて, 表が出れば赤玉を, 裏が出れば白玉をつぼの中に入れる。

(1)  $n$  回ともコイン Q を選び, つぼの中には  $k$  個の赤玉が入っている確率を求めよ。

(2) つぼの中が赤玉だけとなる確率を求めよ。

(3)  $n = 2004, p = \frac{1}{2}, q = \frac{1}{2}, r = \frac{1}{5}$  のとき, つぼの中に何個の赤玉が入っていることがもっとも起

こりやすいかを求めよ。



[ 東京工業大学 2004 年 前期 4 ]



$0 < r < 1$  とする。空間において、点  $(0, 0, 0)$  を中心とする半径  $r$  の球と点  $(1, 0, 0)$  を中心とする半径  $\sqrt{1-r^2}$  の球との共通部分の体積を  $V(r)$  とする。次の問いに答えよ。

(1)  $V(r)$  を求めよ。

(2)  $r$  が  $0 < r < 1$  の範囲を動くとき、 $V(r)$  を最大にする  $r$  の値および  $V(r)$  の最大値を求めよ。

